

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月26日

【評価実施概要】

事業所番号	2774500504		
法人名	社会医療法人 栄公会		
事業所名	グループホーム栄公		
所在地	大阪府泉佐野市中町3丁目3番46号 (電話) 072 - 458-6780		
評価機関名	NPO法人 カロア		
所在地	大阪市天王寺区堀越町1-1天王寺堀越ビル		
訪問調査日	平成21年9月25日	評価確定日	

【情報提供票より】(平成21年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年1月18日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤9人, 非常勤8人, 常勤換算13.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋	造り
	2階建ての	1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(9月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	0	要介護2	7		
要介護3	6	要介護4	5		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 87.5 歳	最低	76 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐野記念病院、岸村歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街の一角にあるとても家庭的なホームです。駐車場や玄関前は季節の草花で彩られ、家族や地域住民等が気軽に訪れやすい雰囲気となりました。また、自法人が運営する病院や老人保健施設が徒歩数分のところにあるため、入居者や家族の大きな安心感にもつながっているようです。また、マニュアルやサービス記録等の整備も徹底されており、各種会議や研修会にも非常に熱心に取り組まれている事実などから、ハード・ソフト両面にわたって、より良いホーム作りを日々目指しておられることが十分に確認できました。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 災害対策の更なる充実に向けた地域への働きかけや消防署立会いの防災訓練等を企画されていました。また、認知症高齢者への理解を深めるため、行政主催の公開講座で講師をされたり、地域の民生委員にホーム内を見学いただくなど、積極的な取組や改善のあとが見受けられました。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 設立されたばかりの市内の地域密着型サービス事業者連絡協議会の活動に積極的に参加されており、地域ネットワークの更なる充実やサービスの質の向上を図るための具体策について模索検討されています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 自己評価・外部評価・普段の生活状況等についての報告や討議をはじめ、防災対策や地域交流への積極的な働きかけも行っておられます。なお、会議で得られた意見については全職員で意見交換を行い、サービスの向上に活かしておられます。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 玄関前に苦情・要望受付箱を設置。また、面会時に家族から意見を聴取したり、年二回 家族交流会を開催し、その際にアンケート調査を実施されるなど積極的な取組が見られ、得られた内容を運営に反映されています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日々の買物や外出はもとより、町内会等の主催するイベントに参加されるなど、積極的に地域交流を図っておられます。また、近隣住民にボランティア協力を要請されるなどの働きかけも見られます。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの考えを取り入れた明確な理念が掲げられていました（理念：●家族、地域との連携を大切に、信頼関係を築きます●ゆったり、のんびり、そして明るい楽しい生活を目指します●個別ケアを大切にします）。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づいた具体的目標が掲げられた事業計画書を全職員に配布し、その進捗状況については月次の会議で確認されるなど、理念の実践と周知徹底を図っておられます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣住民のボランティアを積極的に受け入れておられます。また、地元の町内会役員に運営推進会議のメンバーとして参加いただくことで、地域との交流を常に働きかけ、町内会や老人会が主催する行事への参加や講師派遣等も行っておられます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の結果や改善策を入居者や家族が閲覧できるよう配慮されていました。また、課題については管理者と職員で話し合いを行い、具体的な改善に努めておられます。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業内容、制度改正の説明、自己評価、外部評価、普段の生活状況、地域交流の活性化等についての報告や話し合いを行い、サービスの質の向上に活かしておられることが、議事録等から確認できました。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者や地域包括支援センター職員と連携し、虐待等困難事例の解決に努めたり、行政主催の高齢者行事や講演会等にも積極的に参加されるなど、日々連携を図っておられます。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時の声掛けや電話での報告はもとより、年3回のホームだよりや年2回の家族交流会などの場で、定期的かつ積極的に個々にあわせた報告を行っておられます。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情解決責任者・苦情受付担当者が配置されており、玄関先にはご意見箱の設置も見られました。また、定期的にアンケート調査を実施（年4回）し、その結果を職員間で分析・検討するなど、運営に反映させておられます。また、苦情の内容や件数については年間事業報告書に記載し公表されています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者へのダメージが大きいことを十分理解し、無意味な異動がないよう配慮されています。また、人事考課制度に基づくフィードバック面接等により、各職員の不満や要望を積極的に聴取するなど、退職を未然に防ぐ努力もみられます。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受ける機会が均等に確保されている上、グループ内の老人保健施設や病院主催の研修会にも積極的に参加されるなど、各職員の段階に応じた定期的な人材育成を行っておられます。また、ホーム独自でも毎週のように専門委員会を開催し、働きながらトレーニングできる体制が整備されています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数の同業者との相互訪問研修や福祉専門学校の実習生の受け入れなどを行っておられます。また、行政や地域の同業者との連携により、泉佐野市地域密着型サービス事業者連絡協議会を設立されるなど、サービスの質の向上に積極的に取り組んでおられます。	○	地域密着型サービス事業者連絡協議会の活性化によるサービスの質の向上に期待します。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前に入居予定者や家族にホームの見学に来ていただき、他の入居者や職員との交流を図っていただく機会を設けるなど、配慮されています。また、ホームの雰囲気にも積極的に取り組んでおられます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の生活歴や人生観を導く話を常に心がけ、会話の中で自然な形で役割や分担を見出し支えあえる関係を築いておられ、また本人の得意な分野（園芸・家事・華道・茶道・絵描き・ちぎり絵等）で、自由に喜怒哀楽が出せるような雰囲気作りも大切にされていました。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自然な会話の中から意向を聴取できるよう努めておられました。また、ご家族の意向を年4回アンケートで聴取されるなど、積極的な働きかけも見られました。また、内容によっては地域包括支援センター等と連携し、問題解決につなげておられます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員の気づきやアイデアに加え、本人や家族の意見も積極的に聴取し、それらが反映された適切な介護計画の作成がなされていました。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は3ヶ月に1回の見直しと6ヶ月に1回のケアカンファレンスを実施（本人・家族も参加）。なお、変化が生じた場合には関係者全員で話し合いを行い、現状に即した新たな計画を随時作成されています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の多機能性を活かし、個々の要望に応じた1対1での支援を心がけておられます（外出や買物・室内レク・生活リハビリ・園芸作業等）。また、1・2階入居者合同のレクリエーション等も積極的に実施されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医の往診はもとより、自法人が運営する病院や近隣クリニック・協力歯科医の往診も可能となっています。なお、通院は原則家族付き添いながら、状況によっては職員が代行される場合もあるとのことでした。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について早い段階から医師も交えた関係者で話し合いを行い、本人や家族が方針を決定するための情報提供などにも積極的に努めておられます。	○	入居者や家族の希望があった場合、ある程度重度化した状態でもホームでの生活を継続できるような配慮および介護体制の強化に期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	月1回個人情報に関する話し合いを行うことで、プライバシーの確保の徹底を図っておられます。また、接遇に関する研修に参加するなど、人格を尊重した対応を常に心がけておられます。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	塗り絵を楽しむ人、テレビを観ている人、ソファでゆったりされている人、入浴されている人、食事の下準備をされている人等さまざま、一人ひとりのペースを大切に個別支援が徹底されていました。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて食事の準備や後片付けに参加されていました。また、入居者と職員と一緒に談笑しながら食事をとったり、それぞれの好みを反映したメニューや食材を取り入れるなど、さらに食事が楽しいものとなるような配慮や支援を行っておられました。また、月1回は行事食を取り入れるなどの工夫も見られました。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴に関するアンケート結果をもとに、それぞれの希望に応じた個別支援がなされていました。また、お風呂嫌いな入居者に対しては拒否原因を分析・把握することで、うまく入浴いただけるよう配慮されていました。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの特性や希望が反映された個別支援がなされていました（趣味活動・外出支援・園芸・レクリエーション・家事等）。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の希望に沿った外出支援（買物・散歩・家庭菜園を楽しむ等）はもとより、外食や地域交流行事への参加も見られました。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、職員の見守りや気付きによって外出の希望を察知するなど、自由な暮らしを支えておられました。また、テンキー操作が必要な箇所には暗証番号を貼付するなどの配慮も見受けられました。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中と夜間を区別した緊急時対応マニュアルが整備され、入居者を交えた避難訓練も実施されています。近隣母体施設との合同避難訓練にも職員が参加。また、運営推進会議などの場で地域への働きかけも行っておられます。今年度からは消防署立会いによる訓練も実施されるなど、積極的に取り組んでおられます。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事や水分摂取量を記録することで、日々の健康管理に役立てておられます。また、系列施設（老人保健施設）の管理栄養士のアドバイスを受けながら、栄養バランスが考慮された手作りの家庭的な食事メニューが提供されていました。また、嚥下能力が低い方に対しては水分をゼリーやかんでん状の固形物で対応されるなどの工夫も見られました。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清掃が行き届いており、不快な音や光などもなく、居心地よく過ごせるような工夫がなされていました。また、季節に見合ったちぎり絵を入居者と職員で共同作成し毎月掲示されるなど、季節感も十分に感じられました。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室ともに使い慣れた愛用品が置かれ、また季節に見合った装飾をされるなど、居心地よく過ごせるような配慮が随所に見られました。また、馴染みのものがさらに増えるよう、家族への積極的な働きかけも行っておられました。	○	ご本人とご家族が現状で満足されていれば問題のないことですが、さらに生活感や安心感が増し、居心地よく過ごせる空間になることを期待します。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。